

福島県海浜青年の家

第1節 概 要

福島県海浜青年の家は、恵まれた自然環境の中で、青少年たちの集団宿泊研究活動をとおり、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

上記開設の趣旨を踏まえ、次のような教育目標を掲げその達成に努めてきた。

- (1) 規則を守り、規律ある態度を養う。
- (2) 相互の連帯意識を高め、協同の精神を培う。
- (3) 人格を尊重し合い、友愛の精神を培う。
- (4) 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- (5) 心身をきたえ、自己を高めようとする意欲を育てる。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役職	氏名	所 属
理事長	大内 忠昭	福島県教育委員会教育長
副理事長	渡辺 忠男	福島県総務部長
専務理事	濱名 光春	福島県海浜青年の家所長
理事	紺野 勇	福島県教育庁教育次長
理事	今野 繁	相馬市長
理事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理事	片岡 義和	福島県教育庁社会教育課長
監事	有賀雄一郎	福島県総務部財政課長
監事	佐々木恒雄	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

氏名	所 属
◎佐藤 栄	相馬市教育委員会教育長
○齋藤 博	相馬市中央公民館長
藤川 光紀	福島県青少年婦人課長
七島 征	福島県教育庁社会教育課主幹
佐々木 俊昭	福島県立原町高等学校長
荒 薫	相馬市立中村第一中学校長
太田 豊秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
伊東 和幸	相馬青年協議会(利用者代表)
天沼 薫	相馬市青年協議会(利用者代表)
先崎 貞臣	福島県海浜青年の家友の会(同)

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

職員	所長	次席 務課 長兼 課長	指導 課長	主 事	指導 主事	副保 健主 任技 師	主兼 任運 転務 手員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 平成2年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をとおり青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、研修プログラムを工夫し、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし、適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料の整備と効果的な指導援助を行い、各団体の研修のねらいの達成に努めた。
- ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大
 - ア 「所報」の効果的な活用による施設の紹介を進めるとともに、社会教育関係機関・団体との連携を密にしたりしながら利用の啓もうに努めた。

(2) 主催事業の効果的運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会
(5月・6月・2月の3回実施)
 - イ 親と子・海浜のつどい(7月に実施)
 - ウ 高校生・海浜のつどい(8月に実施)
- ② 事業内容の工夫・改善と啓もう。
 - ア 事業のねらいに即した内容を計画し、魅力ある活動になるように努めた。
 - イ 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容方法等の工夫・改善を図った。
 - ウ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓もう活動を進めた。(特に、高校生・海浜のつどい)

(3) 現職教育の計画的推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実地踏査・実技研修等を計画的に行い、指導に精通するように努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。
 - ウ O A機器の活用に精通し、事務の効率化を図った。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他社会教育施設等を視察し、本施設機能の充実に生かした。